

地域医療の現状

全国各地で自治体病院の閉鎖や休診が相次ぎ、地域の医療が危機的な状況に陥っています。

地域医療の「再生・維持・発展」を目指す登米市の現状や最前線で命を守る医師の環境、家族の健康のことなどについて、今月号から隔月でお知らせします。

救急搬送の約6割は 市立病院で受け入れ

昨年中に市内で救急車が出動した件数は合計2571件、実際に搬送された人は2321人でした。1日あたりの平均出場件数は約7件で、市民の約38人に1人の割合で搬送されたこととなります。市内の医療機関には1508人が搬送され、そのうち97・7%にあたる1474人を市立4病院および登米診療所で受け入れています。

実際に救急搬送された患者の傷病程度別の搬送状況を見ると、【表1】入院の必要がないと判断された軽症者が631人で全体の27・2%を占めており、そのうちの77・8%にあたる491人が、市内の医療機関に搬送されています。【図1】症状が重症になるにつれて、他の医療圏域に運ばれる人の割合が多くなり、重症者の50・4%、262人

が、近隣の大崎市民病院や石巻赤十字病院、栗原市にある県立循環器・呼吸器病センターなどに搬送されている状況です。

緊急性がなければ 受診は次の日に

市立病院では、佐沼病院と米谷病院、豊里病院の3カ所が、救急患者受け入れのための病床や設備を持ち、救急の知識や経験を有する医師が常時診療に従事している救急告示病院となっています。

佐沼病院に限って見ると、20年度中の時間外患者は5849人です。一日当たりすると16人となります。夜間救急を担当した医師が翌日も通常勤務するという、過重労働が全国的な問題になっています。しかし、根底にある慢性的な医師不足という大きな問題により、解決までには時間がかかります。

登米市の休日医療体制

毎週日曜日、祝日、年末年始の休日診療体制は「休日急病当番医」として、市内27医療機関が輪番で診療しています。内科系急病者は当番医が診療し、重症者の診療は佐沼病院が担当しています。また、交通事故などの外科系急病は軽症・重症の区別なく、佐沼病院が、毎週土曜日も含めて担当しています。20年度、休日に当番医や佐沼病院での受診患者数は、合わせて6877人でした。こうした状況の中、市民の皆さんが求める医療体制に対応するため、登米診療所では8月から毎週日曜日に内科の外来診療を実施します。詳しくは10ページをご覧ください。

治療を受けるときの 5つの心得

医師を全面的に信頼してすべてを委ねていた昔と違い、医療過誤などが大きく報道される現在では、インフォームド・コンセントが現代の医療の中心となりました。

インフォームド・コンセントとは、医師が患者に対して病気、病状や検査など、治療の内容をわかりやすく説明し、提供された情報を患者がよく理解したうえで、検査や治療の内容を了承し、同意することです。つまり「患者が主人公」ということで

市立病院の科別の医師数は【表2】のとおりで、昨年の4月と医師数を比較すると3人の減、19年の4月と比較すると8人の減となっています。医師数は年々減少しています。そこで、救急受入体制の維持のためにも、市民の皆さんにも救急外来の役割をもう一度考え直してもらい、緊急性の高い場合を除き、時間外の受診は控えるようにしましょう。また、宮城県では、子どもの夜間の急な発熱やケガなどの場合に備え、受診の判断に迷ったときに相談できる「宮城県子ども夜間安心コール」を開設していますので、ご利用ください。

宮城県子ども夜間安心コール

- 相談日時 毎日午後7時から11時まで
 - 相談対象者 おおむね15歳までの子どもの保護者など
 - 相談内容 子どもの急な病気やケガへの対応方法などの助言（治療は行いません）
 - 相談電話番号
ブッシュ回線の固定電話、携帯電話 #8000
それ以外の固定電話、PHSなど ☎022 (212) 9390
- ※こちらの情報もご利用ください。
子どもの救急ホームページ <http://kodomo-qa.jp/>
 夜間や休日などの時間外に病院を受診するかどうか、判断の目安などの情報を提供しています。
 (社団法人日本小児科学会提供)

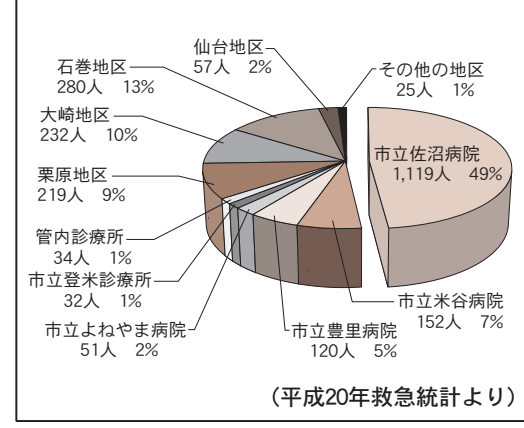
あり患者も自分の病気に知る努力が必要となります。今後治療を受ける際は、医療機関との信頼関係が結ばれないという事態を避けるためにも、以下のことに心掛けて受診しましょう。

- ① かかりつけ医を持ちましょう
何でも相談できて、信頼できる、「かかりつけ医」を見つけておくことが大切です。年に1回、健康診断を受け、かかりつけ医に健康相談をしておく、普段の健康状態が分かり、病気のときの診断に役立ちます。
- ② 症状をきちんと伝えましょう
いつから、どのような症状なのか、あらかじめメモしておき、伝えるようにしましょう。継続受診の時は、その後の変化も伝えましょう。
- ③ 分からないことは質問しましょう
大事なことはメモをとって確認し、納得できない時は質問しましょう。ただし、時間のかかる質問や相談の場合は医師の都合の良い時間に予約を取りましょう。
- ④ これからの見通しを聞きましょう
治療や診断には時間がかかることもあります。見通しを含めて医師とよく相談し、治療方法を決めましょう。また、治療法などで決断がつかないときは主治医以外の医師に意見を求めることもできます。

【表1】傷病程度別搬送状況（平成20年救急統計より） 単位：人

	傷病程度						合計		
	死亡	割合	重症	割合	中等症	割合		軽症	割合
佐沼病院	36	49.3	184	35.4	516	47.0	383	60.7	1,119
米谷病院	12	16.4	36	6.9	77	7.0	27	4.3	152
豊里病院	8	11.0	19	3.7	66	6.0	27	4.3	120
よねやま病院	5	6.8	13	2.5	16	1.5	17	2.7	51
登米診療所	1	1.4	6	1.1	13	1.2	12	1.9	32
管内診療所	-	-	-	-	9	0.8	25	3.9	34
管内合計	62	84.9	258	49.6	697	63.5	491	77.8	1,508
管外合計	11	15.1	262	50.4	400	36.5	140	22.2	813
合計	73	100	520	100	1,097	100	631	100	2,321

【図1】医療機関地域別収容状況



薬も調剤も かかりつけの薬局で

医師が治療に必要な薬の名前や使用方法を処方せんに書き記し、薬剤師が調剤することで薬の使用の安全性を高めることを目的にするのが医薬分業です。自宅の近くやあなたが信頼の置ける薬局を「かかりつけ薬局」に決め、複数の医師にかかった場合でもあらかじめ決めた1カ所の薬局で調剤を受けることが大切です。

今回の新型インフルエンザ対策では、感染者が増加している地域において、慢性疾患などを有する定期受診患者には、発熱などの症状があり、電話での診断ができれば、医師は処方せんを患者のかかりつけ薬局に送付し、薬局が患者に医薬品を届けることを基本としています。

そのようなことから、かかりつけ薬局を持つことが大変重要になってきています。

【問い合わせ】
 医療局医療管理課 企画係
 ☎0220(21)5030